

多様な保育ニーズに応えるため

区長が子育てママと意見交換

22日午前11時、杉並区の田中区長が「こどもコワーキング ベビコ」(上荻1-24-10-402)を訪問し、子育て中のママたちと多様な保育ニーズを支えるための支援のあり方などについて、意見交換を行いました。

「こどもコワーキング ベビコ」は、平成25年11月に開設された子育てしながら働く方を支援する民間の施設です。設立者は、東京都の子育て支援員も務める曾山恵理子さんです。平成25年1～2月に、曾山さんの第二子の保育所への入所申請の際、多くの子どもが希望する認可保育園に入ることが難しい状況であることが判り、同じ境遇の保護者とともに、区に対し認可保育園の新たな設置を求めて活動を行っていました。曾山さんの第二子は、幸いにも保育所への入所が叶いましたが、保育園に子どもを預けられなくて途方にくれるママたちを見て、自分で何かできないかと始めたのが、このコワーキングでした。

コワーキングは、もともとは会議・事務スペースのことで、企業や会社に属さないフリーのライターや起業家などが、机を並べて仕事することで、それぞれの専門分野を足し算で発揮できるといった狙いがあります。保育所に子どもを預けられなかった方の中には、こうしたフリーランスで仕事をする人も多くいました。そこで、仕事場と隣接する形で保育スペースやキッズスペースを備えた施設の開設を決意しました。

22日11時、田中区長が「こどもコワーキング ベビコ」を訪ねました。この日は、地域の子育て中のママたちの子育て情報交換会が催され、15組ほどの親子が集まっていました。施設はマンションの1室で、子育ての現状と区に対する保育行政について、ざっくばらんに意見交換が行われました。

カメラマンとして仕事をしているというママからは、「私のような会社に勤めずに、フリーで働くものには育児休業制度もないし、保育所入所申請時に提出する書類を揃えることも難しい。こうしたことが、子どもが欲しくても産むことをためらう理由になっている。」との意見がありました。区長からは、「これまで保育事業は後回しにされてきたが、国も子育ての支援を施策の真ん中に置いて考えるようになりました。区も緊急対策として公園の敷地を使うなど、定員の確保に努めています。公園として使えなくなることで、批判的な意見も出ていますが、都市の生活は互いに譲り合わなければ成り立たないと考えています。また、保育園を作れば作るほど、保育需要を生むという後ろ向きな意見もありますが、潜在需要を呼び覚ますことは、将来のため国のためになると思っています。」と話しました。



【問い合わせ先】

総務部広報課：03-3312-2111 内線1502